

ウガラ地域の哺乳類：ブッシュハイラックスの生態

【日時】2016 年 11 月 26 日（土）午後 2 時半～5 時

【会場】ダルエスサラーム日本語補習校

【講師】飯田恵理子：京都大学アジア・アフリカ地域研究科、学術振興会特別研究員（PD）

【要旨】ハイラックスは、1 科 3 属からなるイワダヌキ目(Hyracoidea)に属する哺乳類である。姿かたちはリスやウサギのような齧歯目に似ているが、実はゾウ目やジュゴン目に近い仲間という不思議な生き物だ。タンザニアにも広く生息しているが、あまり知られていない動物なのではないか。

アフリカ獣類の一員である小型の草食動物のブッシュハイラックス(Heterohyrax brucei)は、多くの地域において重要な被食動物となっている。彼らはアフリカ大陸に広範囲に分布しており、哺乳類の進化や地域生態系を理解する上で重要な種であると考えられるが、その生態や行動についてはほとんど解明されていない。同種は東アフリカにおいて、乾燥したサヴァンナから湿潤な森林まで多様な植生環境に分布している。しかし、数少ない先行研究のほとんどが、コピ(kopje)と呼ばれる特殊な岩丘環境で行われてきた。そこで本研究は、これまでブッシュハイラックスにとって重要な生息要因であるとされてきたコピが存在しない環境に注目し、西部タンザニア・ウガラ地域において、ブッシュハイラックスの行動と生態を明らかにすることを目的とした。

【発表内容】報告：川北安奈

飯田さんが調査を行っているウガラ地域は、観光客の多い国立公園や保護区とは異なり、動物が人に慣れていない森である。チンパンジーたちも人の臭いを感じ取ると逃げちゃうそうだ。ここでの動物研究の基本は「痕跡探し」であり、飯田さんは森の中でキャンプ生活を送りながら調査を行っている。

今回のセミナーでは、ブッシュハイラックスの巣穴利用について詳しく聞いた。およそ 0.5 km² 四方の範囲を調査したところ、304 ヲ所の潜在的巣穴が存在した。ハイラックスには「ため糞」の習性があるが、糞は 273 ヲ所で発見され、新しい糞は 157 ヲ所で見られた。巣穴は 3 タイプに分けられ、Rock（岩の隙間：115 ヲ所）、Sand（岩と土の間の隙間：73 ヲ所）、Termite（シロアリ塚にある穴：116 ヲ所）があるという。糞の有無および糞の新しさに関して、3 つの巣穴タイプの間には有意な差は見られなかった。4 個体（オス 1 頭、メス 3 頭）に発信器を付けて位置情報を得たところ、調査期間中は Termite タイプの巣穴を頻繁に利用していた。ハイラックスの糞がある巣穴の約半数で他の動物の痕跡が発見され、そのうち約 9 割がマングースのものであった。ハイラックスとマングースが同時に同じ巣を利用する様子も確認したそうだが、相互交渉は観察されなかった。

ウガラ地域のハイラックスは他の哺乳類の巣も自らの巣として利用することでこの地域

の環境に適応していると考えられる。またマングースとの関係の重要性が示唆された。

【質疑応答】 報告：齋藤美保、川北安奈

松隈さん（日本大使館）

質問：発信器を付けたハイラックスが死んだことはなかったのか。

回答：調査をしている間、猛禽に食べられることはなかった。調査期間が終わって翌年に元の巣穴を覗いてみると発信器の首輪とハイラックスの骨が落ちていて、死亡が確認されたことはあった。

質問：なぜハイラックスは巣穴付近に糞をためるのか。においで捕食者に自分の存在を知られてしまうのではないか。

回答：ため糞はオスの縄張りを示すためと言われている。ハイラックスは生涯を約 200m 四方内の範囲で暮らすため居場所はほぼ決まっている。においをつけないために遠くに行ったりして行動範囲を広げるよりは、糞で居場所はわかってしまうかもしれないが狭い場所（巣穴）にいる方が捕食されるリスクが低いと考えられる。

向坊さん（住友商事）

質問：行動範囲の狭いハイラックスが、進化の過程でどのように繁栄したのか。また、どのように衰退したのか。

回答：過去に繁栄していたハイラックスの祖先は、形態的には似ているが大きさは全く異なり、クマやバクぐらいのサイズのものもいた。現在見られるハイラックスがそのまま昔もいたわけではない。進化の過程で他の哺乳類が利用しにくい、岩の隙間や木の洞を利用することで生き残ってきた。

質問：キャンプ生活はどのような感じか。

回答：最初の滞在は 4 ヶ月間であった。修士、博士課程の頃は毎年約半年間訪れた。最近では二、三ヶ月間である。

田中さん（日本語補習校）

質問：他の動物でため糞の習性があるものを教えてほしい。

回答：日本でいえばタヌキがため糞をする。ウガラでいえばラーテルやマングース。ハイラックスほどの規模でため糞をする動物は他にはいないのではないか。ハイラックスの化石化した糞から当時の気候や植生を研究されている方もいる。

質問：キャンプで火を絶やさないようにする理由は何か。

回答：調査地に入った当時はライオンがいた。現在定住者はいないが、伐採、はちみつ取

り、牛飼いの人等がいるので、動物は減ってきたように思う。火を絶やさないようにするのは動物避けの意味もあるが、最近はそのための種火を絶やさないと意味の方が強い。

質問：野生動物は火を怖がるのか。

回答：ミオンボ林では野火が起こりやすいので、ウガラの動物たちにとって火は割と身近な存在だ。だが、火があることは人がいるサインになるし、警戒はしているようだ。ヒョウが一度私たちのキャンプを避けていったこともあり、おそらくそれは火を見ての行動ではないかと考えられる。

鈴木さん（日本大使館）

質問：ハイラックスの繁殖率はどのくらいか。

回答：その見た目から、ネズミ目のように繁殖率が高いと思われがちだが、実際はそれとはまったく異なる生態をとっている。ハイラックスは年に1度、1頭から3頭の子を生む。妊娠期間は7-8ヵ月間、授乳期間は5ヵ月間である。

質問：人と共存できる動物なのか。

回答：ハイラックスは草食動物（ブラウザー）である。比較的人とは近距離で生きていけるのではないと思う。サファリのキャンプに現れたりするが、警戒心が強いのでペットの様に慣れることは難しいと思う。

→鈴木さん談：サファリするとき、夕食のパンをハイラックスが取っていった。

齋藤（WRC）

質問：ハイラックスの巣穴移動のパターンについて教えてほしい。

回答：巣穴の移動は一日1回から2回だった。巣から目的の場所へと直線的な移動を行う。移動は身を隠すことのできる巣穴をベースにして行われる。

田中さん（日本語補習校）

質問：ハイラックスの平均寿命を知りたい。

回答：平均寿命は約10年と言われている。しかし、オスは子孫を残すために闘争し、命を落とすことがあるため野生での寿命はメスより短いと考えられる。出生時の性比はオス：メスで1：1だが、性成熟後の性比は1：4になる。

川北（WRC）

質問：移動はどの時間帯に行われるのか。

回答：先行研究では昼行性と言われていたが、ウガラでは夜行性の傾向が強いように思え

た。広範囲の移動は、日が暮れてから行われる。

質問：みんなで一斉に移動するのか。

回答：捕獲した 4 個体を見ていると、集団として動くような規則性は見られなかった。しかし、夜にいきなり鳴き声が聞こえて、別々の巣にいた 4 個体が一斉に巣の外へ出てきて、それぞれまた違う別の巣穴に迷わず入り込んでいったといった事例を確認した。

質問：迷わず他の巣に入るといことは、巣穴のタイプを選んでいないのか。

回答：巣穴の場所やタイプは把握していて、選んで移動していると思う。

向坊さん（住友商事）

質問：マングースとの共生は他の場所でも見られるのか。

回答：セレンゲティ国立公園では、シママングースとブッシュハイラックスが一緒にいる光景を見た。セレンゲティ国立公園はコピが大きい岩の割れ目を利用しており、ハイラックスが **Termite** タイプの巣穴を利用しているという印象はなかった。

質問：なぜ夜間に移動するのか。夜間は捕食者が多いのではないか。

回答：マトボ国立公園では、ブラックイーグルの餌内容の約 90%はハイラックスであることがわかっている。ウガラでもカンムリクマタカの食べ物の約 62%がハイラックスであった（金田私信）。近年減少傾向にあるライオンやヒョウといった夜行性の肉食獣よりも、昼間に活動する猛禽類の方をハイラックスは恐れているのではないか。

質問：ハイラックスにも表情が見られるのか。

回答：表情はあまり見られないが、驚いたり、興奮したりすると、背中毛が逆立ってくる。

鈴木さん（日本大使館）

質問：ハイラックスに鳴き声はあるか。

回答：甲高い警戒声を発する。捕獲のために追い詰められたときは、ブタのような音を出していた。ロックハイラックスは、セレンゲティ国立公園でも夕方時によく鳴いていた。ツリーハイラックスは、物悲しい鳴き声をする。

川口さん

質問：ハイラックスに興味を持たれたきっかけは何か。

回答：初めてハイラックスを知ったのは、南アフリカのある保護区のテレビ番組を見たときで、そこに少しだけ映っていたのが興味を引いた。

齋藤 (WRC)

質問：個体識別はどのようにするのか。

回答：外観からの識別は難しいため、他の調査地ではイヤータグを使っている。ウガラでは、はじめの 2 年間は直接観察で個体識別を行っていたこともある。捕獲した個体については首輪や毛染めをすることで個体識別を行った。

質問：発信器をつけた 4 個体に血縁関係はあるのか。

回答：血縁関係は分からない。しかし、同じ巣や行動圏を利用していたことから同じ集団に属する個体だと考えている。

幾山さん (JATA Tours)

質問：ハイラックスの子育てについて教えてほしい。

回答：子は生後 2 週間ほどで草を食べるようになる。母親は崖がないような場所を選んで子を産んでいるのではないか。母親の脇のところに乳首がある。子は、まだ小さくても草が食べられるようになったら、ため糞場に糞をするようになるようだ。母親の元から離れていくのはオスの子で、生後約 1 年半から 2 年の時期に移出する。

金山さん (JATA Tours)

質問：一頭でいるオスもいるのか。

回答：いる。そのようなオスは周辺オスと呼ばれる。バチエラーグループではなく、単独オスとして暮らす。